

都 計 第 180号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 様

習志野市長 荒 木



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

日頃より、本市都市計画行政に御理解、御協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

千葉県習志野市

道路は都市を形成する最も重要な社会基盤施設であります。都市の骨格とも言える都市計画道路は、本市では昭和31年を当初に都市計画決定しましたが、その整備率は未だ50パーセント強に過ぎず、安全安心なまちづくりを実現するためにもさらなる整備推進を図ってまいらなければなりません。街路事業をはじめ、都市部における道路事業は多大な予算を必要とし、その財源の確保には苦慮しているところであります。市民サービスを今後も維持向上させていくためには、道路整備の財源が確実に確保されるよう、歳入について地方に影響の与えることの無いよう、国において適切な措置がされるよう望みます。

(道路財源の強化)

都市部の道路整備は地価が高く、用地買収費や補償費等に多額の事業経費が必要とされます。このため、補助金の交付額や事業にかかる補助率について地域性を考慮し、差別化を図っていただくことで、事業推進に寄与するものと考えます。

(道路事業の補助採択強化)

都市部道路事業は多大な事業費がかかることから、整備には相当な年月を要しています。都市部では密集市街地が存在し、防災上はもとより、都市機能の向上に一刻も早い整備が期待されているところです。重点化も重要であります。事業採択については地域の事情を理解いただき、対応が可能な事業については事業採択されるよう改善を望みます。

(補助事業に取組める機会の拡大)

区画整理事業等の市街地整備事業では、事業地内の道路整備は完成することから、併せて近接地の整備を併行して進めることで地域福祉が充実し、事業効果が十分に発揮されることとなります。まちづくり交付金事業以外にも関連事業として包括的に取り組むことの出来る制度を創設していただき、それを活用することで、地域活力が向上されるものと考えます。

(安定的な道路予算の配分)

道路の新設は多大な事業費を要しますが、その後の適正な維持管理はそれ以上に予算を必要としています。本市においてはその財源確保に厳しい状況が続いています。道路予算について今後も継続的に財源が確保されるよう望みます。

②－１ 地域の現状と抱える課題

千葉県習志野市

○現状

本市では将来都市構造の主軸として、都市計画道路は各駅を中心とした地域拠点を結ぶ活動軸として位置付け、都市の一体性を構築するとともに、地域間の連絡強化を図るため、道路網の整備推進を図っております。しかしながら、本市都市計画道路は昭和31年の当初決定に始まり、総延長約50キロメートルが計画されているところですが、未だ半分の整備率となっているのが現状です。また市中心部では鉄道駅が近い歩行者が多く、一般道路では十分な道路幅員が確保されていないことから、通行するのに危険な状況にあり、その改良は構造的に困難なため莫大な事業費を要することから、整備実現に至っておりません。道路利用者が安心して通行出来るよう都市計画道路の整備とともに供用中の道路改良も併せて進めていく必要があります。

○課題

都市の快適性・利便性の向上としての目的に加え、災害への未然の対策として、また少子高齢化社会に配慮した良好な生活空間として、都市計画道路は安全安心のまちづくりには欠かせない基盤施設であります。今後も継続し整備推進を図るためにはさらなる事業費の充当が必要です。つきましては、街路整備に充てる予算措置が強化されるよう望むところです。また、補助対象とならないため、事業化が困難な地方単独事業については、市民にもっとも身近な部分として、一つ一つ改善していかなければならないものであります。このため改良については、創意工夫の中で地域の実情に見合った取り組みを行なうことで、結果的に市民ニーズに答えられるよう、道路構造令の見直しを図っていただくとともに、補助採択基準の緩和等が見直しがされることにより、事業推進につながるものと制度改革に期待をしているところです。

②－２ 地域の目指すべき将来像

千葉県習志野市

市民一人ひとりがより豊かな都市生活を享受でき、安全で安心な暮らしができる都市の構築を目指し、本市道路整備網の充実を図ります。市内の道路をそれぞれの役割に合わせた体系的な整備を図り、円滑な交通処理が出来る交通体系の構築を図ります。また、幅員が狭く、十分な歩行者空間が確保されていない道路も多いことから、今後も高齢者、障害者等にも配慮した安全でゆとりある道路環境を整備していくことが課題となっています。（「習志野市都市マスタープラン」）

（安全安心のまちづくり）

本市道路網は東西軸に比べ南北軸が弱い。本市中心軸となる南北軸を構成する都市計画道路が鉄道と立体交差化されることで、利便性の向上だけでなく、災害時・緊急時のアクセス道路となり、都市の骨格が形成されます。

（公共交通網の整備）

交通不便地を支援するコミュニティバス事業の試験運行を開始しました。公共交通網の一層の充実を図り、高齢者・障害者等に至便となる環境整備の実現を図ります。

（防災機能の強化）

市内密集市街地に計画されている都市計画道路について、地域の軸となる道路を築造することで、交通処理の効率化の向上だけでなく、災害時の避難路、救援路、延焼遮断帯となり、地域防災に資することから、事業中路線の早期完成を目指しています。

このように本市道路計画は将来都市構造を構成する重要な社会基盤であることから、一層の事業推進が図れるようそのための制度拡充について、以下のような実施に向けた施策がとられますよう強く期待しているところです。

- 1 事業進捗推進のための補助額、補助率の見直し
- 2 整備を必要とする路線について、補助事業採択の機会の拡大
- 3 一般財源で実施している事業について、補助採択基準の緩和

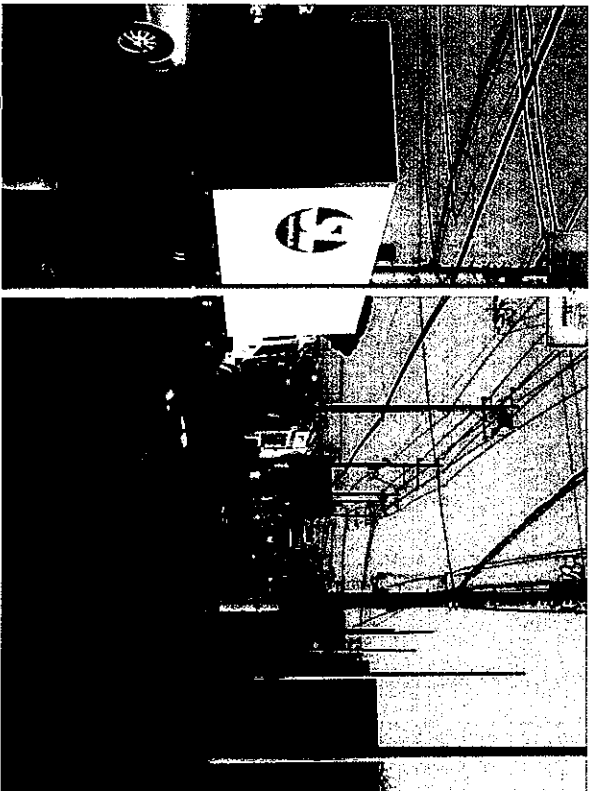
③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

千葉県習志野市

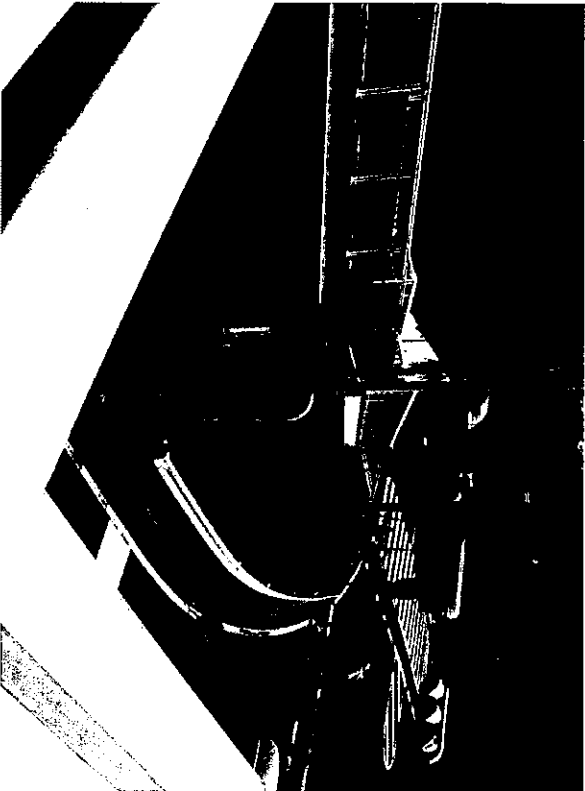
○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
道路ネットワークの 形成と渋滞対策	「都市計画道路の整備」 本市道路網は東西軸と比較し南北軸が弱く、街づくりの骨格となる都市計画道路の整備が遅れている。また市内を鉄道が東西方向に路線が通っているため、地域が分断化されている。朝夕の通勤時には踏切で遮断時間が長く、通行に支障を与えている。 （都市計画道路 3・3・1、3・3・3 号線）	幹線道路を整備することにより、災害時、緊急時にストレス無く地域間の移動がしやすくなる。また、本市臨海部と内陸部を結ぶ都市軸として、市内ネットワークのアクセス強化が図れる。	【参考】 添付資料 写真①
少子高齢化社会に対応 したバリアフリー化	「既設横断歩道橋のエレベーター新設事業」 京葉線が貨物線から旅客線となったことで人の流れが大きく変化し、既成市街地から駅を利用する歩行者交通量が増え、地元からは横断歩道橋のバリアフリー化要望の声が強くなってきている。また、駅北側には福祉施設があり、駅を結ぶ経路上にある。 （国道 357 号香澄交差点）	地元住民をはじめ、議会からのたびたびのバリアフリー化要望が上がっていることから、住民と協働して事業を進めることで市民ニーズに答えることができる。	【参考】 添付資料 写真②
交通事故対策	「交通安全の向上」 鉄道軌道下の道路幅員が狭く自動車通行量が多いため、歩行者、自転車等の通行に危険な状態となっている。道路の両脇が橋台となっているため、改修には莫大な事業費（市単独費）を要するため、整備の目処は立っていない。（習志野市鷺沼 2 丁目 15 地先）	住民の強い要望もあり、危険箇所であることから、早急に改善を必要とする生活密着道路である。歩行者と車を分離し、重大事故が回避され、市民が安心して歩ける空間となります。	安全安心のまちづくりのために、国庫補助採択基準の見直しを望みます。 【参考】 添付資料 写真③

添付資料

写真①



写真②



写真③

